

① 看護の無限の可能性

中学生保護者

看護師と聞いて一番に連想されるものは何でしょうか。きつい、汚い、臭いなどマイナスなイメージを持つのはひと昔前だと思います。いい大学を出て一流の大学に進んでも就職活動が大変、不景気な世の中で、就職してもいつ会社がつぶれてしまうか分からない、それだったら何か手に職をつけて女の子でも自立した生活を送ってほしい…。わが子にそう願う気持ちは今になって分かります。

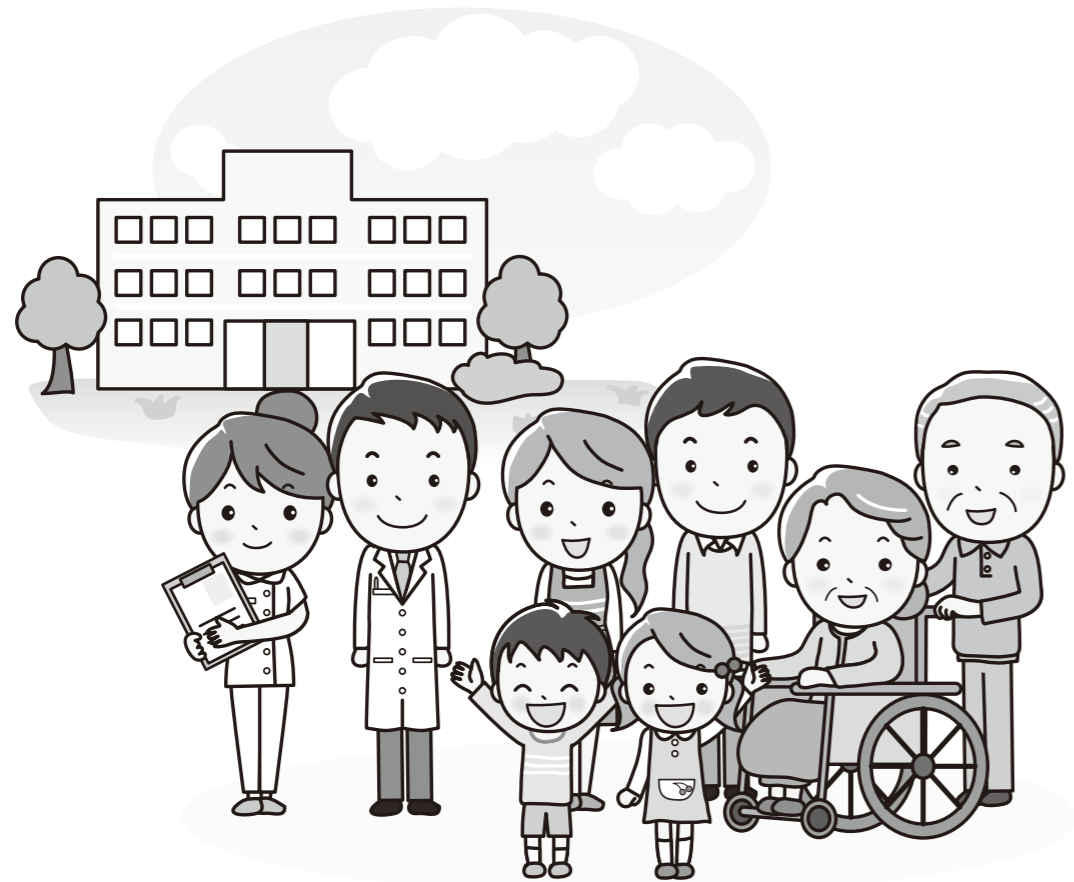
2016年度、高校生が将来就きたい仕事では看護師は第3位で、この10年ほどで看護学部を新設している大学は急増しており、短期大学を含めると大阪だけでも19校に看護学部があります。看護専門学校は30校以上現在でもあります。

ひとことで看護師といっても様々な専門分野があります。「認定看護師」は、がん化学療法看護や新生児集中ケア看護など21の分野に分かれており、それぞれ専門性の高い病院で看護を提供しています。また日本看護協会認定の「専門看護師」には災害看護・在宅看護などの種類があります。就職時には専門性を考えて病院を選ぶことは少ないですが、就職してから自分にあった専門分野を極めるために、研修制度を

利用することや、もしくは再度大学に編入して専門看護師を目指す人もいます。一つのことをとことん極めるのもよし、病院内のローテーションでいろいろな分野を経験してから、何が自分に合っているのかを見極めるのもいいと思います。

私が看護師になって数十年ですが、世の中の動きに合わせていろいろ変化してきました。働き方改革の一例では、超過勤務や就業前残業を減らす動きがあります。就職した頃は、先輩よりも早く行って情報を取り、ひたすら一人でケアを行い、看護記録は最後まで残って書くというスタイルでした。現在では残っている仕事は一人で抱え込まず、チームで補完することで残業を減らし、Work Life Balance を取るような動きになってきています。

将来の進路を決めかねている学生の皆さま、看護という職業が選択支のひとつに選ばれることを願っています。AIが発達し、数十年後にはなくなってしまう職業も多々ありますが、看護は無限の可能性を秘めた職業だと思います。ありがとうございました。



② 言語と言語をつなぐ翻訳

寺西のぶ子(翻訳家)

○翻訳はどんな仕事？

ある国の言語で書かれた文を、別の国の言語で書き直す仕事です。たとえば、英語で書かれた小説を日本語で書き直して、日本語で読める小説にします。フランス語で書かれた記事を日本語に直して、日本語で読める記事にします。また、日本語で書かれた専門書をイタリア語に直して、イタリア語で読める専門書にするのも翻訳です。ポイントは、元の文章が小説ならば書き直したのも小説、元が記事ならば書き直したのも記事、専門書なら専門書に仕上がっていないてはならないことです。小説を翻訳したのに、でき上がったものが説明文になってしまったら、お話になりません。その点で、翻訳は単なる和訳(英訳、仏訳、等々)とは異なります。

○翻訳にはさまざまな分野がある

ひと口に翻訳といっても内容はさまざまですが、大きく3つに分けられます。産業(ビジネス)翻訳、出版翻訳、映像翻訳です。それぞれ、会社に所属している翻訳者もいれば、フリーランスの人もいます。

○仕事に必要な力

腕力はあまり必要ありませんが、体力はもちろん必要です。1日中ほぼ同じ姿勢でコンピューターと向き合うので、目が疲れ、肩凝り、腰痛、腱鞘炎などになりますから、軽い運動やストレッチで体力を維持しなければなりません。

能力という意味では、まず外国語を読んで理解する力が要ります。ただ言葉の意味がわかればいいのではなく、言葉の背景にあるものまで読み取って理解する必要があり、いわゆる読解力が求められます。日本語でも、文章を読むためには読解力が要るのと同じです。

そのうえで、産業翻訳ならば、専門知識が絶対に必要です。また、出版翻訳、及び映像翻訳では、豊富な語彙、表現力が一層求められ、各国の社会や文化に関する理解も必要です。

とはいえ、何もかもに精通している必要はありません。わからなければ、とことんまで調べる根気や緻密さがあれば、何も問題はないといえます。分野にかかわらず、翻訳者にとって一番大切なのは、わからないことがあったら、きちんとわかるまで調べ尽す根気かもしれません。

○仕事に必要な道具

- ・英和、仏和、独和、中和などの辞典：外国語の単語の意味を調べたり確認したりします。
- ・和英、和仏、和独、和中などの辞典：日本語の単語を外国語に書き換える場合に使います。また、外国語の単語を日本語に書き換えるとき、日本語訳が正しいかどうかを確認します。
- ・英英、仏仏、独独、中中など、外国語で言葉を解説してある辞典：英和、仏和などでは言葉の概念がはっきりとわからない場合に役立ちます。
- ・国語辞典：日本語の使い方が正しいかどうかを確認します。
- ・類語辞典：ふさわしいニュアンスの日本語を確認します。
- ・記者ハンドブック、各新聞社の用語の手引き：言葉遣いが適切かどうかを確認します。
- ・その他：百科事典、歴史辞典、ことわざ辞典、引用句辞典、聖書、ありとあらゆる資料。
- ・コンピューター
- ・プリンター

○翻訳の仕事をするためには

今のところ、特に資格は必要ありません。誰にでもできます。ただし、適性はあると思います。最良の作品ができるまで、時間が許さざり(締め切りがありますから)どこまでもこだわるのが苦にならない人が向いていると思います。結果を求めて日々努力を重ねる、アスリートに似ているかもしれません。

勉強を始めるには、翻訳学校の講座を受講するのが早道ですが、独学で学ぶことも充分可能です。そして、翻訳の技術を学ぶと同時に、読書をしたり映画を見たりして、感性を磨く努力も必要です。また、仕事を得るためには、自分を売り込むセールスの力も必要です。ただ待っているだけでは、存在に気づいてもらえません。オーディションを受けたり、作品を持ち込んだりして、たとえ断られても諦めないことが大切です。

翻訳は、よその国の歴史、文化、社会を日本に伝え、日本の歴史、文化、社会を他国に発信する仕事です。言語と言語をつなぐ仕事ではありますが、ひいては国と国、人と人をつなぐ仕事だと思います。

